弔　辞

太田藤一郎先生，わたくしが先生に弔辞を捧げることになろうとは，ましてや今のこの時に，弔辞を捧げるめぐり合わせになろうとは，全く夢思わぬことでありました．つい先日の教授会終了後，しばし談笑した後，先生にさよならを申しましたが，実はこれが永遠のお別れの言葉になろうとは，全く意外，そして先生の訃報は全く突然のことであり，未だにその事実を認めたくない気持で一杯であります．入院された，と聞いた時も，数日前の先生の元気なお顔を思いうかべ，しばらくのご療養の後，またお元気で，一緒にキャンパスの中で仕事ができるものとばかり思っていました．それなのに，ご家族の懸命のご看護にも拘らず，先生は遂に逝かれました．人の世の無常ということを，これほど痛切に感じたことはありません．ご家族のご悲嘆は察するに余りあり，またわたくしも深い悲しみに包まれて，今先生の前に立っています．

かえりみれば，先生とのおつきあいは，先生もわたくしもが学生であった時にはじまり，今や40年の長きにわたっています．そしてその間，先生はわたくしに，一番近い，そして一番信頼できる先輩として，いわばわたくしは先生を兄貴のように思うて，今日まで過してきました．この間，英文学科にも，大学全体にも，様々のことがありましたが，わたくしと先生とは，常にキャンパスの中で苦楽を分ちあってきました．キャンパス・トラブルの解決の仕方について共になやみ，カリキュラムの運営について共に考え，文学について論議をしただけではありません．わたくしもまた，先生と同じく，植物を，自然を深く愛しますが，先生とはよくそれらについて語りあったものであります．わけても春の訪れの喜び，小さな命の芽生えを語るときの，先生の発せられる何ともやさしい言葉，童顔が，わたくしの心には焼きついています．今，その春が又めぐり来ようとしている

のに，れんぎょう，まんさくのあでやかさ，ふきのとう，わらびの目立たぬ，しかしたくましい生命の躍動について，もはや語り合うことができないとは，何と寂しいことでありましょうか.

先生は，今，この世の生涯を終えられましたが，先生のその生涯の大部分は，同志社大学，わけても英文学科のために捧げられた，といっても過言でありません．先生あって，はじめて英文学科の今日はあったわけであり，先生の教えをうけて，実に数多くの者が学窓を巣立って行きました．そしてそれら全ての者は，先生の深い学識に敬意を払うのみならず，先生の毅然としていながら，実は何とも暖いご人徳に深く動かされたはずであります．先生はヒューマニズムという言葉をよく使われましたが，この言葉は，実に暖い人格に裏打ちされていたことを，今にして痛感しています.

今，先生のご遺業を偲び，先生のご人徳を敬慕する多くの者がここに集まっています．わたくしも又その一人として，悲しみと驚ろきに，未だ気持の整理もよくできないままに，敢えて文学部長としての惜別の蕪辞を連ねました.

先生，長い間，同志社大学，英文学科のためにおつくし下さり，ありがとうございました.

われわれの一人一人に先生の高いご人格にふれさせていただき，ありがとうございました.

ご家族の皆さまが，今の深い悲しみを克服して，強くお元気にお過しになりますことを願います．と共に，先生のご冥福を心より祈りあげます.

合　掌

1981年3月16日

同志社大学文学部長　　木　村　俊　夫